

KAGOYA

FILESC

バックアップサービス

rsyncd 設定方法

目次

概要	6
rsync の設定 (OS 別)	8
■ CentOS (RedHat Enterprise/Fedora) の設定方法	9
xinetd 経由で rsyncd を起動する方法	9
1. xinetd パッケージのインストール確認	9
2. xinetd のインストール	9
3. rsync パッケージのインストール確認	10
4. rsyncd.conf の設定	11
5. rsyncd.secrets の設定	12
6. xinetd 起動用スクリプトの確認	12
7. xinetd 起動用スクリプトの編集	13
8. hosts.allow の設定	13
9. 起動用スクリプトの登録	13
10. xinetd サービスの起動	13
■ FreeBSD の設定方法	15
rsyncd をデーモンとして起動する方法	15
1. rsync のインストール	15
2. rsyncd.conf の設定	15
3. rsyncd.secrets の設定	17
4. rc.conf の設定	17
5. rsyncd デーモンの起動	18
rsyncd を inetd 経由で起動する方法	19
1. rsync のインストール	19
2. rsyncd.conf の設定	19
3. rsyncd.secrets の設定	20
4. services 内の rsync サービスの有無確認	21
5. inetd.conf の設定	21
6. rc.conf の設定	21
7. hosts.allow の設定	22
8. inetd サービスの再起動	22
■ Ubuntu の設定方法	24
rsyncd をデーモンとして起動する方法	24
1. rsyncd.conf の設定	24

2.	rsyncd.secrets の設定	25
3.	デーモン起動用スクリプトの確認.....	26
4.	デーモン起動用スクリプトの編集.....	27
5.	起動用スクリプトの登録.....	28
6.	rsync デーモンの起動.....	28
xinetd 経由で rsyncd を起動する方法.....		29
1.	rsyncd.conf の設定	29
2.	rsyncd.secrets の設定	30
3.	xinetd のインストール.....	31
4.	xinetd 起動用スクリプトの編集.....	32
5.	デーモン起動用スクリプトの編集.....	33
6.	hosts.allow の設定.....	33
7.	起動用スクリプトの登録.....	33
8.	xinetd サービスの起動	33
■ Debian の設定方法		35
rsyncd をデーモンとして起動する方法.....		35
1.	rsync のインストール	35
2.	rsyncd.conf の設定	35
3.	rsyncd.secrets の設定	36
4.	デーモン起動用スクリプトの確認.....	37
5.	デーモン起動用スクリプトの編集.....	38
6.	起動用スクリプトの登録.....	39
7.	rsync デーモンの起動.....	39
各 OS 共通設定(コントロールパネルの設定 他)		40
コントロールパネルの設定		41
初めてコントロールパネルの「バックアップサービス」メニューに入ったとき		41
1.	バックアップサービスの利用開始	41
2.	rsync の設定	42
スケジュールの作成		44
3.	スケジュール画面	44
4.	スケジュールの作成	44
5.	スケジュールのテスト.....	46
付録.....		47
rsync モジュールの設定例.....		48
rsync モジュールとは.....		48
rsyncd.conf の構成.....		48

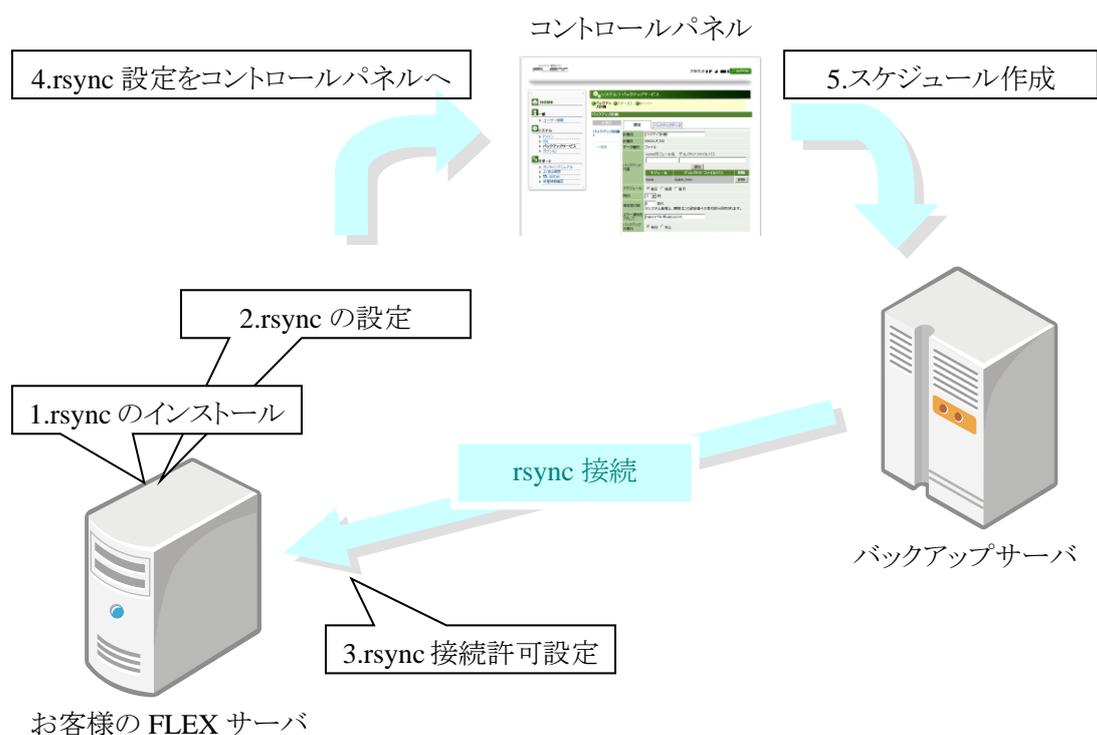
グローバル設定	49
モジュール設定	50
コントロールパネルの設定	51
設定例	51
モジュールとパスの関係	52

概要

本マニュアルでは FLEX 向けバックアップサービスを利用するにあたって、お客様側で必要な設定を解説しております。

お客様にさせていただく設定内容は

- rsync のインストール
 - rsyncd の待ち受け設定
 - rsyncd とバックアップサーバが通信できるように接続許可の設定
 - rsyncd の設定にあわせたコントロールパネルの設定
- になります。



本バックアップサービスは rsync を利用してバックアップを行います。そのため、お客様のサーバに rsync をインストールしていただく必要があります。

また、rsync の通信を待ち受けるためにデーモンか inetd (xinetd) 経由で rsyncd を起動しておく必要があります。さらに、バックアップサーバからの rsync 通信ができるように、それぞれの起動方式にあわせた接続許可設定をお客様の FLEX サーバにさせていただきます。

その際 rsyncd の設定として「rsync モジュール」を設定していただく必要があります。

その上で、コントロールパネルにて、バックアップの計画を作成するとバックアップが実施されます。

rsync のインストールおよび設定方法につきまして、CentOS (→p.9)、FreeBSD (→p.15)、Ubuntu (→p.24)、Debian (→p.35) の手順を解説しています。RedHat Enterprise および Fedora をご利用のお客様は、CentOS (→p.9) の設定を参考に読み進めてください。

また、OS 毎に inetd (xinetd) 経由で起動する方法と、rsyncd をデーモンで起動する方法を、それぞれ解説しております。

お客様の構成にあわせて、マニュアルの該当する箇所から読み進めてください。

コントロールパネルでの設定につきましては各 OS 共通 (→p.41) ですので、あわせてご覧ください。

■CentOS (RedHat Enterprise/Fedora) の 設定方法

xinetd 経由で rsyncd を起動する方法 (p.9～)

■CentOS (RedHat Enterprise/Fedora) の設定方法

xinetd 経由で rsyncd を起動する方法

1. xinetd パッケージのインストール確認

xinetd パッケージがインストールされているか確認します。

```
[root@cent5 ~]# rpm -q xinetd
```

パッケージ xinetd はインストールされていません。

既にパッケージがインストールされている場合はパッケージ名とインストールされているバージョンが表示されます。

```
[root@cent5 ~]# rpm -q xinetd
```

```
xinetd-2.3.14-10.e15
```

2. xinetd のインストール

xinetd パッケージがインストールされていない場合は yum を使用してインストールします。

```
[root@cent5 ~]# yum install xinetd
```

```
Loaded plugins: fastestmirror
```

```
Loading mirror speeds from cached hostfile
```

```
* addons: www.ftp.ne.jp
```

```
* base: www.ftp.ne.jp
```

```
* extras: www.ftp.ne.jp
```

```
* updates: www.ftp.ne.jp
```

```
Setting up Install Process
```

```
Resolving Dependencies
```

```
--> Running transaction check
```

```
---> Package xinetd.x86_64 2:2.3.14-10.e15 set to be updated
```

```
--> Finished Dependency Resolution
```

```
Dependencies Resolved
```

```
=====  
Package Arch Version Repository Size  
=====
```

```
Installing:
```

```
xinetd      x86_64      2:2.3.14-10.e15  base          125 k

Transaction Summary
=====
Install      1 Package(s)
Upgrade      0 Package(s)

Total download size: 125 k
Is this ok [y/N]: y
Downloading Packages:
xinetd-2.3.14-10.e15.x86_64.rpm | 125 kB    00:00
Running rpm_check_debug
Running Transaction Test
Finished Transaction Test
Transaction Test Succeeded
Running Transaction
  Installing      : xinetd                                1/1

Installed:
  xinetd.x86_64 2:2.3.14-10.e15

Complete!
```

3. rsync パッケージのインストール確認

rsync パッケージがインストールされているか確認します。

```
[root@cent5 ~]# rpm -q rsync
rsync-2.6.8-3.1
```

下のような表示の場合 rsync パッケージがインストールされていないので、yum を使用して rsync パッケージをインストールします。

```
[root@cent5 ~]# rpm -q rsync
パッケージ rsync はインストールされていません。
[root@cent5 ~]# yum install rsync
```

4. rsyncd.conf の設定

rsyncd.conf を/etc に配置します。

```
[root@cent5 ~]# vi /etc/rsyncd.conf
```

内容は以下のようになります。

```
use chroot = yes
uid = root
gid = root
syslog facility = local0

[home]
1 path = /home 3
  read only = false
  auth users = root
  secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

[]内(上の例では home となっている部分)はコントロールパネルでの「rsync モジュール名¹」の指定に必要です。モジュール名は記号を除く半角英数字内の文字でユーザーが決めます。バックアップシステムは、このモジュールで指定されたパス³を起点に、コントロールパネル内で指定された「ディレクトリ・ファイルパス²」を辿って、それ以下をバックアップ対象として実行します(→p.48)。その他、詳しい rsyncd.conf の設定については、公式サイト(<http://rsync.samba.org/>)および、公式マニュアル(<http://rsync.samba.org/ftp/rsync/rsyncd.conf.html>)をご覧ください。

スケジュール名	設定	バックアップデータ
バックアップ	スケジュール名: バックアップ	
+追加	スケジュールID: BACKUP_331	
	データ種別: ファイル	
	rsyncdモジュール名: home	ディレクトリ・ファイルパス: /public_html
	バックアップ対象	追加
	モジュール	ディレクトリ・ファイルパス
	home	/public_html
		削除
	実行間隔: <input checked="" type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 <input type="radio"/> 毎月	
	時刻: 3 時	
	保存世代数: 1 世代	
	結果通知先アドレス:	
	バックアップの実行: <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 休止	

5. rsyncd.secrets の設定

rsyncd.secrets を先ほどの rsyncd.conf 内で設定した secrets file の内容に合わせて設定します。この例では rsyncd.secrets ファイルを /usr/local/etc に配置します。

```
[root@cent5 ~]# vi /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

内容は以下のようになります。

```
root:password
```

中身は1行1ユーザーの形で、ユーザー名とパスワードを「:(コロン)」で区切って記述します。

本バックアップシステムにおいて、ユーザー名は「root」固定です。パスワードはコントロールパネルでの「rsync パスワード⁴」に揃える必要があります。「rsync パスワード」はコントロールパネルの「バックアップサービス」→「サーバ」→「rsync 設定」から設定できます。なお、このアカウント設定は OS のアカウントとは独立して設定ができます。OS のアカウントに設定をそろえる必要はありません。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバ セットアップ

サーバ情報 FTPアクセス rsync設定

rsync設定

バックアップサービスではrsyncによりバックアップサーバからご利用のサーバへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

項目	内容
rsyncパスワード設定状況	設定済み

[rsyncパスワード変更]

項目	内容
rsyncパスワード ⁴	<input type="password"/>

rsyncd.secrets ファイルが root 以外から閲覧できないように権限を変更します。

```
[root@cent5 ~]# chmod 600 /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

6. xinetd 起動用スクリプトの確認

```
[root@cent5 ~]# cat /etc/xinetd.d/rsync
# default: off
# description: The rsync server is a good addition to an ftp server, as it ¥
# allows crc checksumming etc.
service rsync
{
```

```
disable = yes

socket_type    = stream

wait          = no

user          = root

server        = /usr/bin/rsync

server_args    = --daemon

log_on_failure += USERID

}
```

7. xinetd 起動用スクリプトの編集

起動用スクリプト内の `disable` の行を `yes` から `no` へと変更します。

```
[root@cent5 ~]# vi /etc/xinetd.d/rsync
(変更前)      disable = yes
(変更後)      disable = no
```

8. hosts.allow の設定

`hosts.allow` ファイルにバックアップサーバの接続許可をします。以下の内容を追記してください。

バックアップサーバーが「`fbu01.kagoya.net`」の場合

```
# External storage backup service
rsync:203.142.206.49
```

バックアップサーバーが「`fbu02.kagoya.net`」の場合

```
# External storage backup service
rsync:133.18.176.14
```

※バックアップサーバーは、サービスの内容によって異なります。

当社サポートサイト(<https://support.kagoya.jp/flex/manual/backup/access.html>)をご参考に、お客様がご利用可能なバックアップサーバーをご確認ください。

9. 起動用スクリプトの登録

スタートアップ時に `xinetd` デーモンが起動するように設定します。

```
[root@cent5 ~]# chkconfig xinetd on
```

10. xinetd サービスの起動

`xinetd` サービスを起動します。

```
[root@cent5 ~]# /etc/init.d/xinetd restart
xinetd を起動中: [ OK ]
```

■FreeBSD の設定方法

rsyncd をデーモンとして起動する方法 (p.15～)

rsyncd を inetd 経由で起動する方法 (p.19～)

■FreeBSD の設定方法

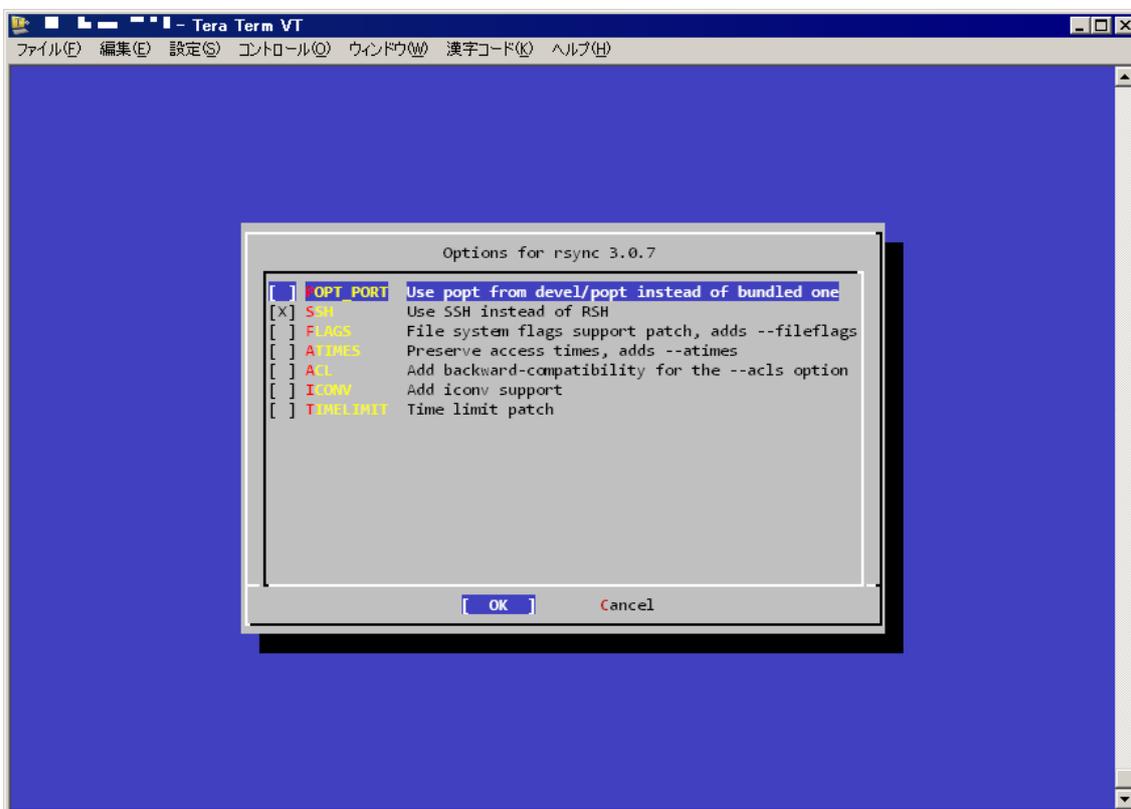
rsyncd をデーモンとして起動する方法

1. rsync のインストール

ports を利用して rsync をインストールします。

```
[root@freebsd ~]# cd /usr/ports/net/rsync
[root@freebsd /usr/ports/net/rsync]# make install; make clean
```

ports のオプション画面が表示された場合、以下のようにします。



2. rsyncd.conf の設定

/usr/local/etc 内の rsyncd.conf を編集します。

```
[root@freebsd ~]# vi /usr/local/etc/rsyncd.conf
use chroot = yes
uid = root
gid = wheel
syslog facility = local5
```

```

hosts allow = 203.142.206.49
hosts deny = *

[home]
path = /home
read only = false
auth users = root
secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets

```

hosts deny は「*」を、hosts allow には、ご利用可能なバックアップサーバーをご確認のうえ、
 fbu01.kagoya.net をご利用のお客様:「203.142.206.49」
 fbu02.kagoya.net をご利用のお客様:「133.18.176.14」
 を記述してください。

※ご利用可能なバックアップサーバーの確認手順については、

当社サポートサイト(<https://support.kagoya.jp/flex/manual/backup/access.html>)をご参照ください。

[]内(上の例では home となっている部分)はコントロールパネルでの「rsync モジュール名¹」の指定に必要です。モジュール名は**記号を除く半角英数字内の文字でユーザーが決めます**。バックアップシステムは、このモジュールで指定されたパス³を起点に、コントロールパネル内で指定された「ディレクトリ・ファイルパス²」を辿って、それ以下をバックアップ対象として実行します(→p.48)。その他、詳しい rsyncd.conf の設定については、公式サイト(<http://rsync.samba.org/>)および、公式マニュアル(<http://rsync.samba.org/ftp/rsync/rsyncd.conf.html>)をご覧ください。

スケジュール名	設定	バックアップデータ
バックアップ	スケジュール名 バックアップ	
+追加	スケジュールID BACKUP_331	
	データ種別 ファイル	
	rsyncdモジュール名 ¹	ディレクトリ・ファイルパス ²
	バックアップ対象	
	追加	
	モジュール	ディレクトリ・ファイルパス
	home	/public_html
	削除	
	実行間隔 <input checked="" type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 <input type="radio"/> 毎月	
	時刻 3 時	
	保存世代数 1 世代	
	結果通知先 アドレス	
	バックアップの実行 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 休止	

3. rsyncd.secrets の設定

rsyncd.secrets を先ほどの rsyncd.conf 内で設定した secrets file の内容に合わせて設定します。この例では rsyncd.secrets ファイルを /usr/local/etc に配置します。

```
[root@freebsd ~]# vi /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

内容は以下のようになります。

```
root:password
```

中身は1行1ユーザーの形で、ユーザー名とパスワードを「:(コロン)」で区切って記述します。

本バックアップシステムにおいて、ユーザー名は「root」固定です。パスワードはコントロールパネルでの「rsync パスワード⁴」に揃える必要があります。「rsync パスワード」はコントロールパネルの「バックアップサービス」→「サーバ」→「rsync 設定」から設定できます。なお、このアカウント設定は OS のアカウントとは独立して設定ができます。OS のアカウントに設定をそろえる必要はありません。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバ セットアップ

サーバ情報 FTPアクセス rsync設定

rsync設定

バックアップサービスではrsyncによりバックアップサーバーからご利用のサーバーへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

項目	内容
rsync/パスワード設定状況	設定済み

[rsync/パスワード変更]

項目	内容
rsync/パスワード ⁴	<input type="password"/>

rsyncd.secrets ファイルが root 以外から閲覧できないように権限を変更します。

```
[root@freebsd ~]# chmod 600 /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

4. rc.conf の設定

rc.conf に rsyncd の起動設定を追記します。

```
[root@freebsd ~]# vi /etc/rc.conf
```

最後に以下の行を追加します。

```
rsyncd_enable="YES"
```

5. rsyncd デーモンの起動

rsyncd デーモンを起動します。

```
[root@freebsd ~]# /usr/local/etc/rc.d/rsyncd start
```

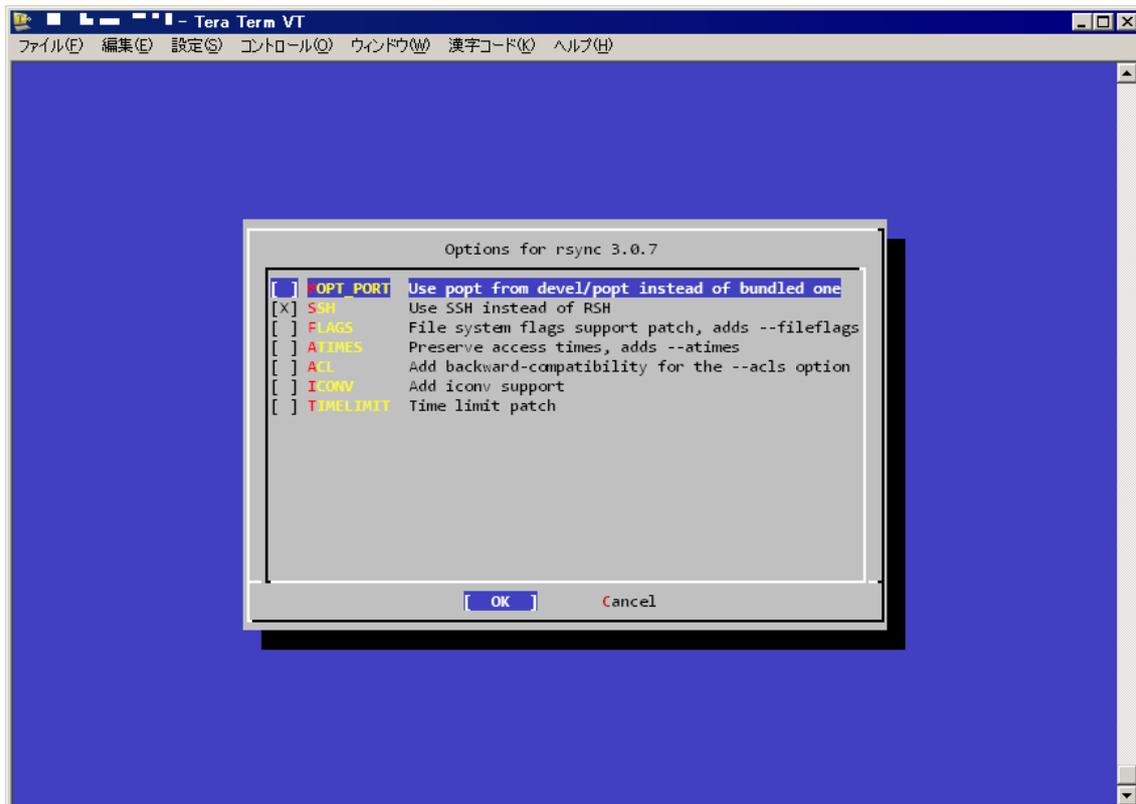
rsyncd を inetd 経由で起動する方法

1. rsync のインストール

ports を利用して rsync をインストールします。

```
[root@freebsd ~]# cd /usr/ports/net/rsync
[root@freebsd /usr/ports/net/rsync]# make install; make clean
```

ports のオプション画面が表示された場合、以下のようにします。



2. rsyncd.conf の設定

/usr/local/etc 内の rsyncd.conf を編集します。

```
[root@freebsd ~]# vi /usr/local/etc/rsyncd.conf
use chroot = yes
uid = root
gid = wheel
syslog facility = local5
[home]
path = /home
```

1

3

```
read only = false
auth users = root
secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

[]内(上の例では home となっている部分)はコントロールパネルでの「rsync モジュール名¹」の指定に必要です。モジュール名は**記号を除く半角英数字内の文字でユーザーが決めます**。バックアップシステムは、このモジュールで指定された**パス³**を起点に、コントロールパネル内で指定された「**ディレクトリ・ファイルパス²**」を辿って、それ以下をバックアップ対象として実行します(→p.48)。その他、詳しい rsyncd.conf の設定については、公式サイト(<http://rsync.samba.org/>)および、公式マニュアル(<http://rsync.samba.org/ftp/rsync/rsyncd.conf.html>)をご覧ください。

スケジュール名: バックアップ

スケジュールID: BACKUP_331

データ種別: ファイル

rsyncモジュール名: rsyncモジュール名 (1)

ディレクトリ・ファイルパス: ディレクトリ・ファイルパス (2)

モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除
home	/public_html	削除

実行間隔: 毎日 毎週 毎月

時刻: 3 時

保存世代数: 1 世代

結果通知先アドレス:

バックアップの実行: 有効 休止

3. rsyncd.secrets の設定

rsyncd.secrets を先ほどの rsyncd.conf 内で設定した secrets file の内容に合わせて設定します。この例では rsyncd.secrets ファイルを /usr/local/etc に配置します。

```
[root@freebsd ~]# vi /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

内容は以下のようにします。

```
root:password
```

中身は1行1ユーザーの形で、ユーザー名とパスワードを「:(コロン)」で区切って記述します。

本バックアップシステムにおいて、ユーザー名は「root」固定です。パスワードはコントロールパネルでの「rsync パスワード⁴」に揃える必要があります。「rsync パスワード」はコントロールパネルの「バックアップサービス」→「サーバ」→「rsync 設定」から設定できます。なお、このアカウント設定は OS のアカウントとは独立して設定ができます。OS のアカウントに設定をそろえる必要はありません。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス **サーバー** セットアップ

サーバー情報 FTPアクセス **rsync設定**

rsync設定

バックアップサービスではrsyncdによりバックアップサーバーからご利用のサーバーへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

項目	内容
rsyncパスワード設定状況	設定済み

[rsyncパスワード変更]

項目	内容
rsyncパスワード 4	<input type="text"/>

rsyncd.secrets ファイルが root 以外から閲覧できないように権限を変更します。

```
[root@freebsd ~]# chmod 600 /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

4. services 内の rsync サービスの有無確認

services ファイル内に rsync サービスの記述があるか確認します。

```
[root@freebsd ~]# cat /etc/services
rsync 873/tcp
```

5. inetd.conf の設定

inetd.conf に rsync の設定を追記します。

```
[root@freebsd ~]# vi /etc/inetd.conf
```

最後に以下の行を追加します。

```
rsync stream tcp nowait root /usr/local/bin/rsync rsync --daemon
```

6. rc.conf の設定

inetd サービスを利用する設定になっていない場合、rc.conf に inetd の起動設定を追記します。

```
[root@freebsd ~]# vi /etc/rc.conf
```

最後に以下の行を追加します。

```
inetd_enable="YES"
```

7. hosts.allow の設定

hosts.allow ファイルにバックアップサーバの接続許可をします。以下の内容を追記してください。

バックアップサーバが「fbu01.kagoya.net」の場合

```
# External storage backup service
rsync:203.142.206.49
```

バックアップサーバが「fbu02.kagoya.net」の場合

```
# External storage backup service
rsync:133.18.176.14
```

※バックアップサーバは、サービスの内容によって異なります。

当社サポートサイト(<https://support.kagoya.jp/flex/manual/backup/access.html>)をご参考に、お客様がご利用可能なバックアップサーバをご確認ください。

8. inetd サービスの再起動

```
[root@freebsd ~]# /etc/rc.d/inetd restart
```

■ Ubuntu の設定方法

rsyncd をデーモンとして起動する方法 (p.24～)

xinetd 経由で rsyncd を起動する方法 (p.29～)

■ Ubuntu の設定方法

rsyncd をデーモンとして起動する方法

1. rsyncd.conf の設定

rsyncd.conf を/etc に配置します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /etc/rsyncd.conf
[sudo] password for admin: *****
```

内容は以下のようになります。

```
use chroot = yes
uid = root
gid = root
syslog facility = local0
hosts allow = 203.142.206.49
hosts deny = *
[home]
1 path = /home 3
  read only = false
  auth users = root
  secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

hosts deny は「*」を、hosts allow には、ご利用可能なバックアップサーバーをご確認のうえ、fbu01.kagoya.net をご利用のお客様:「203.142.206.49」
fbu02.kagoya.net をご利用のお客様:「133.18.176.14」
を記述してください。

※ご利用可能なバックアップサーバーの確認手順については、

当社サポートサイト(<https://support.kagoya.jp/flex/manual/backup/access.html>)をご参照ください。

[]内(上の例では home となっている部分)はコントロールパネルでの「rsync モジュール名¹」の指定に必要です。モジュール名は記号を除く半角英数字内の文字でユーザーが決めます。バックアップシステムは、このモジュールで指定されたパス³を起点に、コントロールパネル内で指定された「ディレクトリ・ファイルパス²」を辿って、それ以下をバックアップ対象として実行します(→p.48)。

その他、詳しい rsyncd.conf の設定については、公式サイト(<http://rsync.samba.org/>) および、公式マニュアル(<http://rsync.samba.org/ftp/rsync/rsyncd.conf.html>)をご覧ください。

スケジュール名	バックアップ						
スケジュールID	BACKUP_331						
データ種別	ファイル						
rsyncdモジュール名	ディレクトリ・ファイルパス						
バックアップ対象	<table border="1"><thead><tr><th>モジュール</th><th>ディレクトリ・ファイルパス</th><th>削除</th></tr></thead><tbody><tr><td>home</td><td>/public_html</td><td>削除</td></tr></tbody></table>	モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除	home	/public_html	削除
モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除					
home	/public_html	削除					
実行間隔	<input checked="" type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 <input type="radio"/> 毎月						
時刻	3 時						
保存世代数	1 世代						
結果通知先アドレス							
バックアップの実行	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 休止						

2. rsyncd.secrets の設定

rsyncd.secrets を先ほどの rsyncd.conf 内で設定した secrets file の内容に合わせて設定します。この例では rsyncd.secrets ファイルを /usr/local/etc に配置します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

内容は以下のようにします。

```
root:password
```

中身は1行1ユーザーの形で、ユーザー名とパスワードを「:(コロン)」で区切って記述します。

本バックアップシステムにおいて、ユーザー名は「root」固定です。パスワードはコントロールパネルでの「rsync パスワード⁴」に揃える必要があります。「rsync パスワード」はコントロールパネルの「バックアップサービス」→「サーバ」→「rsync 設定」から設定できます。なお、このアカウント設定は OS のアカウントとは独立して設定ができます。OS のアカウントに設定をそろえる必要はありません。

rsync 設定

バックアップサービスではrsyncdによりバックアップサーバーからご利用のサーバーへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

項目	内容
rsync パスワード設定状況	設定済み

[rsync パスワード変更]

項目	内容
rsync パスワード ⁴	<input type="text"/>

rsyncd.secrets ファイルが root 以外から閲覧できないように権限を変更します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo chmod 600 /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

3. デーモン起動用スクリプトの確認

rsync デーモン起動用のスクリプトを確認します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ cat /etc/default/rsync
# defaults file for rsync daemon mode

# start rsync in daemon mode from init.d script?
# only allowed values are "true", "false", and "inetd"
# Use "inetd" if you want to start the rsyncd from inetd,
# all this does is prevent the init.d script from printing a message
# about not starting rsyncd (you still need to modify inetd's config yourself).
RSYNC_ENABLE=false

# which file should be used as the configuration file for rsync.
```

```

# This file is used instead of the default /etc/rsyncd.conf
# Warning: This option has no effect if the daemon is accessed
#         using a remote shell. When using a different file for
#         rsync you might want to symlink /etc/rsyncd.conf to
#         that file.
# RSYNC_CONFIG_FILE=

# what extra options to give rsync --daemon?
# that excludes the --daemon; that's always done in the init.d script
# Possibilities are:
# --address=123.45.67.89          (bind to a specific IP address)
# --port=8730                    (bind to specified port; default 873)
RSYNC_OPTS=''

# run rsyncd at a nice level?
# the rsync daemon can impact performance due to much I/O and CPU usage,
# so you may want to run it at a nicer priority than the default priority.
# Allowed values are 0 - 19 inclusive; 10 is a reasonable value.
RSYNC_NICE=''

# run rsyncd with ionice?
# "ionice" does for IO load what "nice" does for CPU load.
# As rsync is often used for backups which aren't all that time-critical,
# reducing the rsync IO priority will benefit the rest of the system.
# See the manpage for ionice for allowed options.
# -c3 is recommended, this will run rsync IO at "idle" priority. Uncomment
# the next line to activate this.
# RSYNC_IONICE='-c3'

# Don't forget to create an appropriate config file,
# else the daemon will not start.

```

4. デーモン起動用スクリプトの編集

起動用スクリプト内の `RSYNC_ENABLE` の行を `false` から `true` へと変更します。

```

ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /etc/default/rsync
(変更前) RSYNC_ENABLE=false

```

```
(変更後) RSYNC_ENABLE=true
```

5. 起動用スクリプトの登録

スタートアップ時に `rsync` デーモンが起動するように設定します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo update-rc.d rsync defaults
```

6. `rsync` デーモンの起動

`rsync` デーモンを起動します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo /etc/init.d/rsync start
```

xinetd 経由で rsyncd を起動する方法

1. rsyncd.conf の設定

rsyncd.conf を/etc に配置します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /etc/rsyncd.conf
```

内容は以下のようになります。

```
use chroot = yes
uid = root
gid = root
syslog facility = local0

[home]
1 path = /home 3
  read only = false
  auth users = root
  secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

[]内(上の例では home となっている部分)はコントロールパネルでの「rsync モジュール名¹」の指定に必要です。モジュール名は記号を除く半角英数字内の文字でユーザーが決めます。バックアップシステムは、このモジュールで指定されたパス³を起点に、コントロールパネル内で指定された「ディレクトリ・ファイルパス²」を辿って、それ以下をバックアップ対象として実行します(→p.48)。

その他、詳しい rsyncd.conf の設定については、公式サイト(<http://rsync.samba.org/>) および、公式マニュアル(<http://rsync.samba.org/ftp/rsync/rsyncd.conf.html>) をご覧ください。

The screenshot shows a web interface for configuring rsyncd. The main section is titled 'バックアップ' (Backup) and includes a '+追加' (Add) button. The configuration is divided into two tabs: '設定' (Settings) and 'バックアップデータ' (Backup Data). The '設定' tab is active, showing the following fields:

- スケジュール名: バックアップ
- スケジュールID: BACKUP_331
- データ種別: ファイル
- rsyncdモジュール名: (Red box with '1' above it)
- ディレクトリ・ファイルパス: (Red box with '2' above it)
- バックアップ対象: A table with columns 'モジュール', 'ディレクトリ・ファイルパス', and '削除'. The first row contains 'home', '/public_html', and '削除'.
- 実行間隔: 毎日 毎週 毎月
- 時刻: 3 時
- 保存世代数: 1 世代
- 結果通知先アドレス: (Empty text field)
- バックアップの実行: 有効 休止

2. rsyncd.secrets の設定

rsyncd.secrets を先ほどの rsyncd.conf 内で設定した secrets file の内容に合わせて設定します。この例では rsyncd.secrets ファイルを /usr/local/etc に配置します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

内容は以下のようになります。

```
root:password
```

中身は1行1ユーザーの形で、ユーザー名とパスワードを「:(コロン)」で区切って記述します。

本バックアップシステムにおいて、ユーザー名は「root」固定です。パスワードはコントロールパネルでの「rsync パスワード⁴」に揃える必要があります。「rsync パスワード」はコントロールパネルの「バックアップサービス」→「サーバ」→「rsync 設定」から設定できます。なお、このアカウント設定は OS のアカウントとは独立して設定ができます。OS のアカウントに設定をそろえる必要はありません。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス **サーバ** セットアップ

サーバ情報 FTPアクセス **rsync設定**

rsync設定

バックアップサービスではrsyncdによりバックアップサーバからご利用のサーバへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

項目	内容
rsyncパスワード設定状況	設定済み

[rsyncパスワード変更]

項目	内容
rsyncパスワード ⁴	<input type="password"/>

rsyncd.secrets ファイルが root 以外から閲覧できないように権限を変更します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo chmod 600 /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

3. xinetd のインストール

xinetd を apt-get を使用してインストールします。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo apt-get install xinetd
```

パッケージリストを読み込んでいます... 完了

依存関係ツリーを作成しています

状態情報を読み取っています... 完了

以下の特別パッケージがインストールされます:

```
libfile-copy-recursive-perl update-inetd
```

以下のパッケージが新たにインストールされます:

```
libfile-copy-recursive-perl update-inetd xinetd
```

アップグレード: 0 個、新規インストール: 3 個、削除: 0 個、保留: 24 個。

186kB のアーカイブを取得する必要があります。

この操作後に追加で 614kB のディスク容量が消費されます。

```

続行しますか [Y/n]? y
取得:1 http://jp.archive.ubuntu.com/ubuntu/
        lucid/main libfile-copy-recursive-perl 0.38-1 [20.6kB]
取得:2 http://jp.archive.ubuntu.com/ubuntu/
        lucid-updates/main update-inetd 4.35ubuntu0.1 [20.0kB]
取得:3 http://jp.archive.ubuntu.com/ubuntu/
        lucid/main xinetd 1:2.3.14-7ubuntu3 [146kB]
186kB を 0s で取得しました (250kB/s)
パッケージを事前設定しています ...
未選択パッケージ libfile-copy-recursive-perl を選択しています。
(データベースを読み込んでいます ... 現在 41555 個のファイルとディレクトリがインストールされ
ています。)
(.../libfile-copy-recursive-perl_0.38-1_all.deb から)
        libfile-copy-recursive-perl を展開しています...
未選択パッケージ update-inetd を選択しています。
(.../update-inetd_4.35ubuntu0.1_all.deb から) update-inetd を展開しています...
未選択パッケージ xinetd を選択しています。
(.../xinetd_1%3a2.3.14-7ubuntu3_i386.deb から) xinetd を展開しています...
man-db のトリガを処理しています ...
ureadahead のトリガを処理しています ...
ureadahead will be reprofiled on next reboot
libfile-copy-recursive-perl (0.38-1) を設定しています ...
update-inetd (4.35ubuntu0.1) を設定しています ...

xinetd (1:2.3.14-7ubuntu3) を設定しています ...
* Stopping internet superserver xinetd          [ OK ]
* Starting internet superserver xinetd         [ OK ]

```

4. xinetd 起動用スクリプトの編集

xinetd 起動用スクリプトを編集します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /etc/xinetd.d/rsync
```

xinetd 起動用スクリプトの内容は下のようになります。

```

service rsync
{
    disable = no

```

```
socket_type    = stream
wait           = no
user           = root
server         = /usr/bin/rsync
server_args    = --daemon
log_on_failure += USERID
}
```

5. デーモン起動用スクリプトの編集

起動用スクリプト内の `RSYNC_ENABLE` の行を `false` から `inetd` へと変更します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo vi /etc/default/rsync
(変更前) RSYNC_ENABLE=false
(変更後) RSYNC_ENABLE=inetd
```

6. hosts.allow の設定

`hosts.allow` ファイルにバックアップサーバの接続許可をします。以下の内容を追記してください。

バックアップサーバーが「`fbu01.kagoya.net`」の場合

```
# External storage backup service
rsync:203.142.206.49
```

バックアップサーバーが「`fbu02.kagoya.net`」の場合

```
# External storage backup service
rsync:133.18.176.14
```

※バックアップサーバーは、サービスの内容によって異なります。

当社サポートサイト(<https://support.kagoya.jp/flex/manual/backup/access.html>)をご参考に、お客様がご利用可能なバックアップサーバーをご確認ください。

7. 起動用スクリプトの登録

スタートアップ時に `xinetd` デーモンが起動するように設定します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo update-rc.d xinetd defaults
```

8. xinetd サービスの起動

`xinetd` サービスを起動します。

```
ubuntu@ubuntu:~$ sudo /etc/init.d/xinetd start
```

■ Debian の設定方法

rsyncd をデーモンとして起動する方法 (p.35～)

■ Debian の設定方法

rsyncd をデーモンとして起動する方法

1. rsync のインストール

rsync を apt-get を使用してインストールします。

```
root@debian:~# apt-get update
root@debian:~# apt-get install rsync
```

2. rsyncd.conf の設定

rsyncd.conf を/etc に配置します。

```
root@debian:~# vi /etc/rsyncd.conf
```

内容は以下のようになります。

```
use chroot = yes
uid = root
gid = root
syslog facility = local0
hosts allow = 203.142.206.49
hosts deny = *
[home]
1 path = /home 3
  read only = false
  auth users = root
  secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

hosts deny は「*」を、hosts allow には、ご利用可能なバックアップサーバーをご確認のうえ、

fbu01.kagoya.net をご利用のお客様:「203.142.206.49」

fbu02.kagoya.net をご利用のお客様:「133.18.176.14」

を記述してください。

※ご利用可能なバックアップサーバーの確認手順については、

当社サポートサイト(<https://support.kagoya.jp/flex/manual/backup/access.html>)をご参照ください。

[]内(上の例では home となっている部分)はコントロールパネルでの「rsync モジュール名¹」の指定に必要です。モジュール名は記号を除く半角英数字内の文字でユーザーが決めます。バックアップシステムは、このモジュールで指定されたパス³を起点に、コントロールパネル内で指定された

「ディレクトリ・ファイルパス²」を辿って、それ以下をバックアップ対象として実行します(→p.48)。
その他、詳しい rsyncd.conf の設定については、公式サイト(<http://rsync.samba.org/>)および、公式マニュアル(<http://rsync.samba.org/ftp/rsync/rsyncd.conf.html>)をご覧ください。

The screenshot shows the configuration page for a backup module. The '設定' (Settings) tab is active. The 'バックアップ' (Backup) section is expanded, showing the following details:

- スケジュール名: バックアップ
- スケジュールID: BACKUP_331
- データ種別: ファイル
- rsyncdモジュール名: (Red box with '1')
- ディレクトリ・ファイルパス: (Red box with '2')

Below these fields is a table for backup targets:

モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除
home	/public_html	削除

Additional settings include: 実行間隔 (毎日 selected), 時刻 (3 時), 保存世代数 (1 世代), 結果通知先アドレス (empty), and バックアップの実行 (有効 selected).

3. rsyncd.secrets の設定

rsyncd.secrets を先ほどの rsyncd.conf 内で設定した secrets file の内容に合わせて設定します。この例では rsyncd.secrets ファイルを /usr/local/etc に配置します。

```
root@debian:~# vi /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

内容は以下のようにします。

```
root:password
```

中身は1行1ユーザーの形で、ユーザー名とパスワードを「:(コロン)」で区切って記述します。

本バックアップシステムにおいて、ユーザー名は「root」固定です。パスワードはコントロールパネルでの「rsync パスワード⁴」に揃える必要があります。「rsync パスワード」はコントロールパネルの「バックアップサービス」→「サーバ」→「rsync 設定」から設定できます。なお、このアカウント設定は OS のアカウントとは独立して設定ができます。OS のアカウントに設定をそろえる必要はありません。

rsync設定

バックアップサービスではrsyncdによりバックアップサーバーからご利用のサーバーへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

項目	内容
rsyncパスワード設定状況	設定済み

[rsyncパスワード変更]

項目	内容
rsyncパスワード ⁴	<input type="text"/>

rsyncd.secrets ファイルが root 以外から閲覧できないように権限を変更します。

```
root@debian:~# chmod 600 /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

4. デーモン起動用スクリプトの確認

rsync デーモン起動用のスクリプトを確認します。

```
root@debian:~# cat /etc/default/rsync
# defaults file for rsync daemon mode

# start rsync in daemon mode from init.d script?
# only allowed values are "true", "false", and "inetd"
# Use "inetd" if you want to start the rsyncd from inetd,
# all this does is prevent the init.d script from printing a message
# about not starting rsyncd (you still need to modify inetd's config yourself).
RSYNC_ENABLE=false

# which file should be used as the configuration file for rsync.
```

```

# This file is used instead of the default /etc/rsyncd.conf
# Warning: This option has no effect if the daemon is accessed
#         using a remote shell. When using a different file for
#         rsync you might want to symlink /etc/rsyncd.conf to
#         that file.
# RSYNC_CONFIG_FILE=

# what extra options to give rsync --daemon?
# that excludes the --daemon; that's always done in the init.d script
# Possibilities are:
# --address=123.45.67.89          (bind to a specific IP address)
# --port=8730                    (bind to specified port; default 873)
RSYNC_OPTS=''

# run rsyncd at a nice level?
# the rsync daemon can
# so you may want to run it at a nicer priority than the default priority.
# Allowed values are 0 - 19 inclusive; 10 is a reasonable value.
RSYNC_NICE=''

# run rsyncd with ionice?
# "ionice" does for IO load what "nice" does for CPU load.
# As rsync is often used for backups which aren't all that time-critical,
# reducing the rsync IO priority will benefit the rest of the system.
# See the manpage for ionice for allowed options.
# -c3 is recommended, this will run rsync IO at "idle" priority. Uncomment
# the next line to activate this.
# RSYNC_IONICE='-c3'

# Don't forget to create an appropriate config file,
# else the daemon will not start.

```

5. デーモン起動用スクリプトの編集

起動用スクリプト内の `RSYNC_ENABLE` の行を `false` から `true` へと変更します。

```

root@debian:~# vi /etc/default/rsync
(変更前) RSYNC_ENABLE=false

```

```
(変更後) RSYNC_ENABLE=true
```

6. 起動用スクリプトの登録

スタートアップ時に `rsync` デーモンが起動するように設定します。

```
root@debian:~# update-rc.d rsync defaults
```

7. `rsync` デーモンの起動

`rsync` デーモンを起動します。

```
root@debian:~# /etc/init.d/rsync start
```

各 OS 共通設定 (コントロールパネルの設定 他)

コントロールパネルの設定

コントロールパネルの設定

初めてコントロールパネルの「バックアップサービス」メニューに入ったとき

1. バックアップサービスの利用開始

バックアップサービスは、「Lite」「Pro」「専用タイプ」とご利用方法が分かれています。初めてメニューに入ったときには下のような画面が表示されます。

システム > バックアップサービス

セットアップ

セットアップ

Lite	
月額費用	無料
最大容量	10GB
<ul style="list-style-type: none">保存世代数は1世代のみです。スケジュール設定数は1個限定です。	
<input type="button" value="利用開始"/>	

Pro	
月額費用	¥525~
最大容量	2TB
<ul style="list-style-type: none">毎月の使用量に応じて月額費用が決まります。詳細は下記料金表をご覧ください。保存世代数が設定できます。スケジュールが複数登録できます。	
<input type="button" value="利用開始"/>	

専用タイプ	
月額費用	¥31,500
最大容量	2TB
<ul style="list-style-type: none">お客様専用のバックアップサーバーをご用意いたします。	
<input type="button" value="申し込み"/>	

ご利用停止	
<ul style="list-style-type: none">全てのデータを削除し、バックアップサービスのご利用を停止します。	
<input type="button" value="利用停止"/>	

ご利用方法に合わせてタイプを選んでください。「Lite」「Pro」は即時利用が可能です。

利用開始されたら下のような画面になります。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバー **セットアップ**

セットアップ

- Liteの利用を開始しました。

セットアップ

Lite		Pro	
月額費用	無料	月額費用	¥525～
最大容量	10GB	最大容量	2TB
<ul style="list-style-type: none">• 保存世代数は1世代のみです。• スケジュール設定数は1個限定です。		<ul style="list-style-type: none">• 毎月の使用量に応じて月額費用が決まります。詳細は下記料金表をご覧ください。• 保存世代数が設定できます。• スケジュールが複数登録できます。	
利用中 Liteに変更		Proに変更	

2. rsync の設定

バックアップサービスを利用する際に rsync の設定が必要となります。「スケジュール」において下のような画面が表示された場合には rsync の設定が完了していない状態です。指示に従って「rsync 設定」の画面を開いてください。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバー セットアップ

スケジュール

**rsyncのパスワードが設定されていないためバックアップが動作しません。
rsync設定から設定を行ってください。**

スケジュール名

+追加

スケジュールが登録されていません。左の「+追加」から登録してください。

「rsync 設定」という表示をクリックすると下の画面が表示されます。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス **サーバー** セットアップ

サーバー情報 FTPアクセス **rsync設定**

rsync設定

バックアップサービスではrsyncによりバックアップサーバーからご利用のサーバーへ接続します。サービスのご利用にはrsyncの接続パスワードを設定する必要があります。

**rsyncのパスワードを設定してください。
設定されていない状態ではバックアップが動作しません。**

項目	内容
rsyncパスワード設定状況	未設定

[rsyncパスワード変更]

項目	内容
rsyncパスワード	<input type="password"/>
確認	確認のため同じパスワードをもう一度入力してください。 <input type="password"/>

変更

この画面の設定は/usr/local/etc/rsyncd.secrets の内容にあわせます(→p.12、p.17、p.20、p.25、p.30、p.36)。例えば rsyncd.secrets の内容が下のような内容の場合、「rsync パスワード」には「password」と入力してください。

```
root:password
```

スケジュールの作成

3. スケジュール画面

スケジュールが設定されていない場合、下の画面が表示されます。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバー セットアップ

スケジュール

スケジュール名

+追加

スケジュールが登録されていません。左の「+追加」から登録してください。

4. スケジュールの作成

スケジュールを追加します。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバー セットアップ

スケジュール

スケジュール名

+追加

設定

スケジュールを新規作成します。

スケジュール名	<input type="text"/>			
データ種別	ファイル			
バックアップ対象	rsyncdモジュール名 <input type="text"/>			
	ディレクトリ・ファイルパス <input type="text"/>			
	<input type="button" value="追加"/>			
	<table border="1"><thead><tr><th>モジュール</th><th>ディレクトリ・ファイルパス</th><th>削除</th></tr></thead></table>	モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除
モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除		
実行間隔	<input checked="" type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 <input type="radio"/> 毎月			
時刻	3 時			
保存世代数	1 世代			
結果通知先アドレス	<input type="text"/>			
バックアップの実行	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 休止			

スケジュール名： 分かりやすい名前を自由につけてください。ただし、他で使用しているスケジュール名と同じスケジュール名を設定することはできません。

データ種別： 「ファイル」固定です。

バックアップ対象：

「rsync モジュール名」には rsyncd.conf 内で記述したモジュール名を指定します（→p.11、p.15、p.19、p.24、p.29、p.35）。使える文字は**記号を除く半角英数字**です。「/（スラッシュ）」などの記号は使用できません。

「ディレクトリ・ファイルパス」には rsyncd.conf 内の対象モジュールで指定されたパスを起点としたディレクトリ名を指定します（rsync モジュールの設定例→p.48）。

実行間隔： 「毎日」「毎週」「毎月」から選べます。

「毎週」を選択した場合、曜日指定が、「毎月」を指定した場合、日の指定ができるようになります。

時刻 指定の時刻にバックアップを実施します。

保存世代数： 保存世代数を指定できます。世代数は最大 9999 世代までです。

結果通知先アドレス：

バックアップ処理の通知メールアドレスを指定します。

バックアップの実行：

「有効」はバックアップを指定時間通りに実施します。ここを「休止」にすると、実行間隔および指定時刻に関わらずバックアップは実施されません。

下の画面が表示されたら、設定は完了です。



5. スケジュールのテスト

スケジュールの編集画面の「今すぐ実行」を押すと、設定されている実行間隔、指定時刻に関わらずバックアップを即時実行できます。この機能は、スケジュールをテストするのにも利用できます。

保存世代数	<input type="text" value="11"/> 世代
結果通知先 アドレス	<input type="text"/>
バックアップ の実行	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 休止

付録

rsync モジュールの設定例

rsync モジュールの設定例

rsync モジュールとは

rsync モジュールとは、rsyncd がデーモンとして動作するときに、動作しているサーバ内のディレクトリに対して、別名をつけ、それぞれのアクセス許可などを設定することができる機能のことです。モジュールの設定は rsyncd がデーモンで動作するときにサーバ側の設定として必要なものです。つまり rsyncd が、そのサーバで公開できるディレクトリに名前をつけたものがモジュールです。

rsyncd.conf の構成

rsyncd.conf は大きくグローバル設定とモジュール設定部分とに分かれています。

```
use chroot = yes
uid = root
gid = root
syslog facility = local0
hosts allow = 203.142.206.49
hosts deny = *
```

グローバル設定

```
[home]
path = /home
read only = false
auth users = root
secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

モジュール設定

```
[misc]
path = /usr/local/etc
read only = false
auth users = root
secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

モジュール設定

モジュール設定は[]でくくられたモジュール名の行で始まり、次のモジュール設定またはファイルの終わりまで一つのかたまりとなります。モジュール設定は、複数・任意個指定することができます。

グローバル設定では、全体の動作に関する設定をします。

モジュールは、公開したいディレクトリを指定するほか、公開するときの権限などの設定もあわせて行います。

上の例だと、モジュールとして「home」と「misc」の二つが公開され、rsync の接続元はこのモジュールを通して rsyncd が動作しているサーバのディレクトリにアクセスします。

※ 注意

モジュールとディレクトリは違う概念です。

rsyncd を通じてアクセスできるのは公開されているモジュールだけです。

公開したいディレクトリのみをモジュール設定として公開することにより、サーバの任意のファイルにアクセスすることはできなくなり、より安全に運用できます。

グローバル設定

```
use chroot = yes
uid = root           ← rsyncd がファイルにアクセスする時のユーザーID
gid = root           ← rsyncd がファイルにアクセスする時のグループ ID
syslog facility = local0
hosts allow = 203.142.206.49      ← rsyncd が接続許可する接続元
hosts deny = *                  ← rsyncd が接続拒否する接続元
```

この設定の場合、rsyncd がファイルのアクセスに使う権限は root:root となります。

また、203.142.206.49 のクライアントを除く全てのクライアントの接続を拒否することになります。

モジュール設定

```
[home]                ← モジュール名
path = /home          ← このモジュールで公開されるディレクトリ
read only = false     ← 読み取り専用にするかどうかの設定
auth users = root     ↓ このモジュールにアクセス可能なユーザー一覧のファイル名
secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

この設定では「home」というモジュール名で、ディレクトリ「/home」が公開されます。

このモジュールは読み取り専用ではないので、読み書き可能となります。

また、このモジュールにアクセスするには「/usr/local/etc/rsyncd.secrets」に書かれているユーザー名・パスワードでの認証が必要です。

※ 注意

モジュール名に使用できるのは半角英数字のみです。

「/(スラッシュ)」などの記号は使用できませんので、ご注意ください。

```
[misc]
path = /usr/local/etc
read only = false
auth users = root
secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

このように、モジュール名は公開するディレクトリ名と揃える必要はありません。分かりやすい名前をつけてください。

コントロールパネルの設定

設定例

```
[misc]

path = /usr/local/etc

read only = false

auth users = root

secrets file = /usr/local/etc/rsyncd.secrets
```

/etc/rsyncd.conf に上のようなモジュール設定をして、「/usr/local/etc/httpd/httpd.conf」ファイルをバックアップしたい場合、コントロールパネルでは下のように入力します。

システム > バックアップサービス

スケジュール ステータス サーバー セットアップ

スケジュール

スケジュール名 設定

+追加

スケジュールを新規作成します。

スケジュール名	<input type="text"/>
データ種別	ファイル
バックアップ対象	<input type="text" value="rsyncdモジュール名 ディレクトリ・ファイルパス"/>

モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除

実行間隔 毎日

時刻 時

保存世代数 世代

結果通知先アドレス

バックアップの実行 有効 休止

設定

「misc」を入力します

/usr/local/etc より下のパスを
/usr/local/etc を抜いた形
つまり「/httpd/httpd.conf」と入力します

モジュールとパスの関係

サーバ上の `rsyncd.conf` の設定と、コントロールパネルの設定との関係は下のようになっています。

[misc]
path = /usr/local/etc

揃える必要があります

指定した rsyncd モジュールの path 項目に、指定したディレクトリ・ファイルパス連結したものが最終的なファイル名になります

rsyncdモジュール名	ディレクトリ・ファイルパス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

モジュール	ディレクトリ・ファイルパス	削除
-------	---------------	----

例えば、モジュールの「path」項目に「/usr/local/etc」、コントロールパネルの「ディレクトリ・ファイルパス」に「/httpd/httpd.conf」と指定した場合、「/usr/local/etc」と「/httpd/httpd.conf」が連結され、最終的なファイル名として「/usr/local/etc/httpd/httpd.conf」がバックアップされます。